

＜保健体育科＞

指導事例一覧

番号	科目名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	体 育	視聴覚機器の活用と話し合い活動を通して論理的思考力を育む事例	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	(1)イ(ii)	③④ ⑥
2	体 育	仲間の技術的な課題や練習方法の選択について指摘し合う活動を通して合意形成に貢献し、課題発見・解決能力を育む事例	球技（ゴール型 サッカー）	(1)イ(ii) (2)ア	①② ⑤⑥
3	保 健	環境と食品の保健について、行政、生産者、消費者などの役割に分かれて話し合いを行い、思考力・判断力等を育成する事例	環境と食品の保健	(1)イ(i) (ii)	⑥

＜分類，活動の見方＞

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

(1) 知的活動（論理や思考）に関すること
ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
(i) 事実を正確に理解すること
(ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること
イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
(i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること
(ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
(2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること
ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること
イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

① 体験から感じ取ったことを表現する
② 事実を正確に理解し伝達する
③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
④ 情報を分析・評価し、論述する
⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

保健体育－１（体育） 視聴覚機器の活用と話し合い活動を通して論理的思考力を育む事例

【学習活動の概要】

1 単元名 運動やスポーツの効果的な学習の仕方		
2 単元の見目 生涯にわたって運動やスポーツを継続するためには、技術の特徴に応じた学習の仕方があることや技能を高めるために、何をどのように取り組めばよいか、健康・安全をどのように確保するかなどの運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。		
3 単元の評価規準		
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、事例などを用いた話し合いや課題学習を通して、学習に主体的に取り組もうとしている。	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、事例を分類したり、整理したりして論理的に考え、筋道を立てて説明している。	運動やスポーツの技術と技能、運動やスポーツの技能の上達過程、運動やスポーツの技能と体力の関係、運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
4 取り上げる言語活動と教材		
(1) 言語活動 ・ワークシートを活用して考えをまとめたり、仲間の意見と比較したりする。 ・グループでの意見交換を通して考えを深める。		
(2) 教材 ・「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」		
5 単元の指導計画（全6時間）		
	ねらい・学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第1時	〔運動やスポーツの技術と技能〕① 「技術と技能の違いとは何？」 学習プリントに自分の考えをまとめた後、グループで意見交換をする。	・ 中学校で学習した作戦、戦術などの知識を基にグループで教師の問いに対して予測を立てさせる。 ・ 意見交換を充実させるために、メンバーの様々な意見を聞くことや自ら発言することが大切であることを理解させる。
第2時 本時	〔運動やスポーツの技術と技能〕② 「次の運動種目をオープンスキル型、クローズドスキル型に分類し、分類した理由を説明しよう。」 視聴覚教材（パワーポイント）を活用して、型の違いを理解した後、グループで事例を分類する。	・ 技術には、オープンスキル型やクローズドスキル型があること、その型の違いによって学習の仕方が異なることについて、根拠を考えながら事例を分類したり整理したりするよう指導する。 ・ 分類に重点があるのではなく、分類した理由を明確にして説明できるようにすることに重点を置くよう指導する。
第3時	〔運動やスポーツの技能の上達過程〕 「運動やスポーツの上達の仕方は、どのようになっているのだろう。」 インターネットを活用して情報を集め、グループの調べた結果を端的にまとめて発表する。	・ 運動やスポーツの技能の上達過程を三つに分ける考え方があること、技能の上達過程は、各段階で上達の速度が異なること、プラトーやスランプの状態があることについて、発表（説明）させる。 ・ グループで調べた情報の信頼性について、批判的に検証するよう指示する。
第4時	〔運動やスポーツの技能と体力の関係〕① 「技能と体力の関係を、スポーツと技能の上達過程の図から予測してみよう。」 プリントに示された事例を通して、技能と体力の関係について自分の考えをまとめる。	・ 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していることを推察させる際、スポーツと技能の上達過程の図から得られる事実や情報を明確にするよう指導する。
第5時	〔運動やスポーツの技能と体力の関係〕② 「技能の上達と体力はどのような関係にあるのだろうか。」 プリントに示された運動例を例にグループで話し合い、分析をして発表する。	・ 運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に応じて体力を高めることが必要になることや期待される効果に応じた技能や体力の高め方があることについて、意見交換をさせる。
第6時	〔運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方〕 様々な具体的な活動例を基に危機回避の方法を検討する。	・ 運動やスポーツを行う際は、健康や安全に配慮した実施が必要になることなどについて、事例を通して予測したり、対策を考えたりさせる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

学習指導要領の 第1体育 2 内容 に、次のように示されている。

H 体育理論

(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。

ア 運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。また、技術の種類に応じた学習の仕方があること。

イ 運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。

ウ 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。

エ 運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること。

本事例は、運動やスポーツの上達過程には、いくつかの段階があり、その段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の解決方法などがあることについて、グループでの学習を行い、上達の過程を調べるなどの調べ学習、意見交換を行い、意見をまとめ発表することで理解を深めている。

【言語活動の充実の工夫】

5 単元の指導計画の学習活動でも分かるように、本指導事例の学習指導では、生徒のこれまでの運動やスポーツの経験を活用し、イメージを膨らませることを重視した。学習のねらいを実現する手立てとして意欲を高めたり、思考・判断を促したりする活動が言語活動の充実につながると考えている。本指導事例における言語活動の充実に向けた工夫は以下の通りである。

- ① 各自の運動やスポーツのイメージを具体化させ、考えを整理させるためにワークシートを活用した。その際、視聴覚教材を用い生徒の意欲や集中力を高めたり、内容を具体的に理解させたりする手立ても併せて用いた。
- ② 自他の意見や経験、イメージを伝え合う話し合い活動や、意見や情報の比較、分析を行う活動を計画的に配置した。
- ③ グループとして考えを深める際に、批判的な視点も踏まえて意見交換を行わせ、根拠を明確にして、より説得力のある説明ができるよう工夫した。
- ④ 内容の理解を一層深めたり、思考力・判断力を高めたりするため、教師の一方的な説明のみにならないよう、グループで調べる、意見交換や発表をする、事例を検討するなどの学習活動を工夫した。

○ 取組①視聴覚機器を使用した学習活動の充実

視聴覚機器を使用し、運動やスポーツの上達過程には練習曲線があること、その段階にはスランプやプラトーがあることや上達過程に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の解決方法などがあることについて指導した。生徒の関心・意欲や課題意識が高まるとともに、習得した知識を活用する学習に結び付いた。



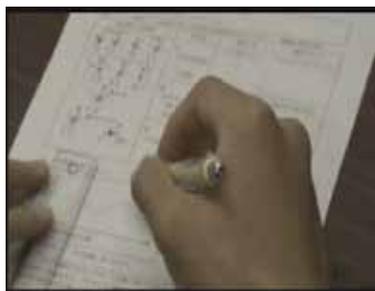
○ 取組②グループでの意見交換等

視聴覚機器による教師の指導内容を理解したり、グループでの意見交換の内容をワークシートに整理したりすることで、理解を深めたり自分の運動やスポーツに関する知見を豊かにすることにつながった。



○ 取組③各グループによる発表

グループで意見交換を行い、合意を形成する場面を設け、意見の根拠を明確にさせることで思考力が図られたと考えている。



保健体育－2(体育) 仲間の技術的な課題や練習方法の選択について指摘し合う活動を通して
合意形成に貢献し、課題発見・解決能力を育む事例

【学習活動の概要】

1 単元名 球技 (ゴール型 サッカー)			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができるようにする。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを一層深く味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めることを目指した学習に主体的に取り組むことができるようにする。 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫することができるようにする。 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・互いに助け合い高め合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、競技会の仕方について学習した具体例を挙げている。 ・課題解決の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動 チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘し合うこと。			
(2) 教材 球技 (ゴール型 サッカー)			
5 単元の指導計画(全26時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・安定したボール操作の復習と簡易ゲーム。 ・空間を作り出す動きの復習と簡易ゲーム。 ・状況に応じたボール操作と簡易ゲーム。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの分析等を材料に、話合いを通して仲間の課題の指摘や、チームの練習方法の選択を行わせる。 	
第2次 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・味方が作り出した空間にパスを送る。 ・空間に侵入したり、空間を埋めたりする動き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに指摘し合うポイントをグラウンドに掲示し、話合いを効率よく進めさせる。 	
本時 第3次 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間、チームの課題に応じた作戦や練習方法を設定し、PDCAサイクルを踏まえて、主体的に話合いに参加したり、指摘し合ったりし、ゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会だけは決めておき、話合いは短時間で効果的に進行させる。 ・話合いのポイントを明確にし毎時のねらいから外れないように観察する。 	
(本時の学習) ボールをもらう前の動きを工夫し、味方が作り出した空間にパスを送ること。			

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例は、保健体育・科目体育・E球技の事例であり、指摘し合うことの本時の指導事項は、次のとおりである。

＜例示＞ その次の年次以降

- ・チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。

（「体育」 E球技 (3) 知識, 思考・判断）

【言語活動の充実の工夫】

運動領域において言語活動を行うためには、1単位時間内で活動時間・運動量を確保した上でポイントを絞り、短時間で効率よく話し合う場面を設定する必要がある。そのための取組の工夫や留意点は、次のとおりである。

- ① 授業開始時や話合いの最後等、グループで集まった際に、かけ声を掛けてハイタッチを行うなど、互いの緊張を和らげ、話しやすい雰囲気作りに取り組んだ。
- ② 短時間でポイントを絞った話合いができるように、事前に司会を決めていた（1～2分の話合い）。
- ③ 毎時間ごとの「ねらい」を明確にし、仲間の技術的な課題を観察する際や、練習方法の選択について指摘し合う際に活用できるように、取り扱う内容のポイントをラミネートカードで作成し、グラウンドに掲示した。
- ④ 1単位時間内に、最低2回はグループでの話合いの機会を設けるように取り組んだ。
- ⑤ 話合いの際、特定の生徒の意見ばかりが尊重されていたり、話合いが滞っていたりするグループについては、合意形成やポイントの確認を行った。
- ⑥ 振り返りワークシートには、話合いで出た内容を中心に短時間で記入させた。実際の指導においては、生徒の実態や、授業時間数、選択生徒数等を考慮して、柔軟に取り扱う必要がある。

「豊かなスポーツライフの実現」を図るためには、コミュニケーション能力の育成や、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育むことが求められる。体育の運動の領域においては、「運動の技能」、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」、「思考・判断」の内容をバランスよく指導することが大切であり、それらの学習指導の工夫・充実が言語活動の充実をもたらすものとする。



保健体育－3（保健） 環境と食品の保健について、行政、生産者、消費者などの役割に
【学習活動の概要】 分かれて話し合いを行い、思考力・判断力等を育成する事例

1 単元名 環境と食品の保健		
2 単元の見積 環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに 基づき行われていること、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、そ れに基づき行われていることを理解できるようにする。		
3 単元の評価規準		
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 環境保健に関わる活動、食品保健に関わる活動について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 健康の保持増進のための環境と食品の保健について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保健に関わる活動、食品保健に関わる活動について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。 健康の保持増進のための環境と食品の保健について、学習したことを、個人及び社会生活や事例等と比較したり、分析したり、関連付けたりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。
4 単元の概要 本単元では、環境と食品の保健について、環境を健康に適したものとしたり、食品の安全性を確保したりするため、環境衛生活動、食品衛生活動が基準に基づいて行われていることを理解できるようにする。環境の保健については、生徒が身近な課題として捉えられるように、地域のごみの処理や上下水道の整備などを教材として取り上げ、環境保健の課題を発見し、解決方法を考えられるようにする。食品保健については、食品の安全に対する課題についてブレインストーミングをしたり、行政、製造者、消費者などの立場に立ってグループでの話し合い活動をしたりするなどの言語活動を通して、思考力・判断力等を育てる。		
5 主な学習活動		
(1)単元の指導計画（全5時間）		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1時	○上下水道の整備、ごみの処理などの環境衛生活動は社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解する。	言語活動を充実するため、以下の場を設定する。 ・環境と健康についてブレインストーミングを行い、出された意見をグループや全体で分類する。 ・環境の保健については、生徒が身近な課題として捉えられるように、地域のごみの処理や上下水道の整備などを教材として取り上げ、環境保健の課題を発見し、解決方法を考える。 ・食品衛生法やJAS法などが制定された背景や趣旨について、グループで分担し、調べたことをまとめる。また、食品の安全性の確保について学習したことを自分たちの身近な生活と結び付けて考え、発表し合う。 ・環境と食品の保健について、資料や生活経験等から課題を発見し、それぞれの課題を分類し、共通の課題の解決方法についてグループで考える。 ・食品の安全に対する課題を例に、行政、生産者、製造者、消費者などの立場に立ってグループや全体での話し合い活動をするなどの言語活動を通して、考えを深める。
第2時	○環境保健の現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかねばならないことを理解する。	
第3時	○食品の安全性の確保について、食品の製造、加工、保存、流通などの各段階での適切な管理が重要であることを理解する。	
第4時	○環境と食品の保健に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用する行政、生産者、製造者、消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることを理解する。	
第5時 本時	○環境と食品の保健について、行政、生産者、製造者、消費者に分かれて、模擬的なリスクコミュニケーションを行う。	

(2) 本時の学習**① 目標**

食品等の保健について、行政、生産者、製造者、消費者などのそれぞれの立場を比較したり、関連付けたりするなどして、筋道を立てて説明することができる。

② 本時の展開

- 前時で学習した行政、生産者、製造者、消費者の役割について確認する。
- 食品の安全性を例に、行政、生産者、製造者、消費者の役割に分かれてグループで話し合う。
- グループで話し合った結果をまとめ、全体で模擬的なリスクコミュニケーションをする。
- 環境と食品の保健についてまとめる。

【解説】**【指導事例と学習指導要領の関連】**

保健体育 第2保健の2内容の(3)に、イ「環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること」、3内容の取扱い(8)に「指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする」、解説には「環境と食品の保健にかかわる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて理解できるようにする」と示されている。ここでは、環境と食品の保健について、ブレインストーミングをし、出された意見をグループや全体で分類したり(前時)、行政・生産者・製造者・消費者の役割について学習したことを活用して、それぞれの立場で話し合ったりするなどの言語活動を積極的に取り入れることにより、生徒の思考力・判断力等を高めることを目指した。本事例により、様々な環境と食品の保健について、行政や生産者・製造者・消費者の立場を踏まえ、将来、国民として健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てることにつながった。

【言語活動の充実の工夫】**○ ブレインストーミングの活用(前時)**

はじめに、消費者の立場で「食品を購入するとき、重要視する点は何か？」をテーマに、次に、生産者・製造者の立場で「食品を生産・販売するとき、注意する点は何か？」をテーマに、ブレインストーミングをし、出された意見をグループで整理し、付箋に記入した。消費者と生産者・製造者について整理した結果を比較し、それぞれの立場による違いをグループでまとめ、全体で話し合った。さらに、消費者と生産者・製造者の立場と行政の役割について関連させて学習することで、それぞれの役割について理解を深めることができた。

○ 食品の保健に関わる役割になって話し合うことで理解を深める活動

本時は、食品の安全に対する課題について、日頃の食生活を振り返り、行政、生産者・製造者、消費者の立場で考えを深め、それぞれの役割を果たすことが重要であることを理解するための学習活動である。日頃の食生活で品質表示や賞味期限、生ものの取り扱い、食中毒、遺伝子組み換え食品などの中から、グループでテーマを選択し、課題やその解決方法について考えた。生徒は、消費者の立場に偏りがちだったが、行政や生産者・製造者の立場で意見を述べることで、課題解決に向けて互いに関係を保つことの必要性を実感することができ、食品の保健について理解を深めることができた。全体では、それぞれの立場で模擬的なリスクコミュニケーションに参加することを通して、その重要性を共通に認識するとともに、食品保健に対するそれぞれの役割の必要性を確認することができた。



さらに、情報公開やその情報を活用するために、行政や消費者の役割について、健康の保持増進のための環境衛生の事例にあてはめることで、環境の保健についても同様のことが言えると整理することができた。このように、グループで話し合ったことを付箋などで整理したり、ワークシートにまとめたりすることで、生徒は学習内容を整理することができ、教師は言語活動の過程を記述内容から把握し、思考・判断の評価に役立てることができた。